

3.5.10. Stitchからのデータ取得方法

この文章では以下を説明します。:

- [correspondence between key terms in Stitch and Streamline](#)
- 統合の制限
- [StitchからGMDH Streamlineにインポートされるデータ](#)
- [データインポートワークフロー](#)
- [データ更新ワークフロー](#)
- [接続設定の初期化方法](#)

重要用語

Stitchが扱う重要なエントリーには、製品、派生製品、倉庫、チャンネルがあります。GMDH Streamlineは、派生製品を **品目**、製品を **品目分類**、倉庫を **地点**、チャンネルを **チャンネル**としてそれぞれを扱います。

例えばStitchからカスタマイズされた品目分類をインポートするときにStitchの製品説明フィールドを (**品目情報フィールド**経由で)利用することもできます。このフィールドは、**在庫レポート**に表示され、必要に応じてフィルターとしても利用できます。

統合の制限

現在のところGMDH StreamlineとStitchの統合は、双方向の統合ではなく、単方向の統合です。GMDH StreamlineがStitchから必要なデータをすべて読み取りますが、計算された購入オーダーをStitchに作成することはできません。これはAPIの制限が理由です。

Stitch Labは、2つのバージョンがあります。クラシックStitchとStitch X(クラシックStitchの改良版)です。クラシックStitchについてはAPIが未完了購入オーダー(POs)と未完了移動オーダー(TOs)を読むためのAPIが提供されていますがStitch Xについては、これらAPIは公開されていません。したがって、この場合CSVファイルの利用が**次善策**です。

手持ち在庫履歴についてもAPIは公開されていません。つまり、現時点ではGMDH Streamlineは以下の対応ができません。:

- 在庫**回転率**の計算
- 期間中に在庫が足りなかった日数(**欠品日数**)の計算
- 機会損失の原因を、欠品日数であるか、需要がないためかを自動で判定すること

一部出荷済み販売オーダー

一部出荷済み販売オーダーのデータインポートについても、特徴的な点があります。GMDH Streamlineは、一部出荷済み販売オーダーがすべて出荷済みであり、それらがすべて販売履歴に含まれているかのように、一部出荷済み販売オーダーのすべての明細を考慮します。GMDH Streamlineは、StitchのAPIの制限からこのロジックに従うしかありません。

この状況は、発生頻度が低く、ユーザーが一部のバックオーダーを出荷した場合に発生する可能性があります。次の例を考慮してみます。2つの明細からなる1つのオーダーを考慮します。:

1. リンゴ 数量 = 100
2. 洋ナシ 数量 = 1000

このオーダーのすべてまたは一部が出荷されるまで□GMDH Streamlineはこれを **未完了販売オーダー**とします。

現在の在庫と積送中数量と未完了販売オーダーを計算した結果□GMDH Streamlineが需要を満たせないと判断した場合□GMDH Streamlineはこれらの果物の必要数量をオーダーするため**推奨購入オーダー**を表示します。各明細について推奨数量から購入オーダーをStitchで作成した場合□GMDH Streamlineはすべてが問題ないとして**同期**されます。

しかしながら□Stitchにて推奨数量作成する前に、(現在一部出荷済みの)リンゴをStitchにて出荷し、さらにGMDH Streamlineでプロジェクトの同期した場合□GMDH Streamlineは出荷されていない洋ナシについて正しくない推奨数量を作成します。

したがって□Stitchにてオーダーの一部が出荷される前に、必要な明細についてGMDH Streamlineの推奨数量を元に購入オーダーの発行済みであるか確認が必要です。

プロジェクトの更新後に、Stitchはすべての派生製品について現在の手持ち在庫を完全に同期します。したがって□GMDH Streamlineは、(一部が出荷された派生製品を含めて)すべての派生製品について手持ち在庫を常に正しく表示します。

APIの制限が取り除かれ次第、一部出荷済み販売オーダーのロジックを改良し、双方向の統合にする予定です。

インポートされるデータ

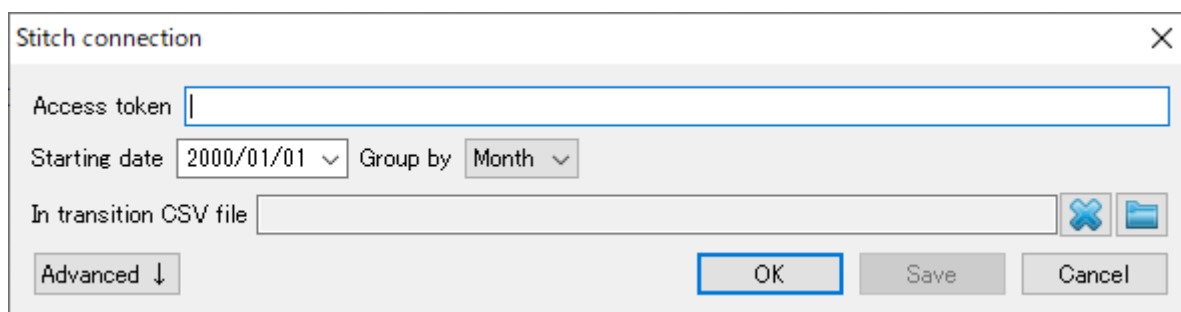
GMDH Streamlineにインポートされたデータは、**在庫管理システム**にて記載されています。

データインポートワークフロー

GMDH Streamlineは、データをインポートにStitchのレガシ□APIを利用してします□APIを利用してStitchに接続するためには、ユーザーのアクセストークンが必要です。アクセストークンの取得については□Stitchのサポートに連絡してください。

次の手順に従い、Stitchデータから新規プロジェクトを作成します。:

1. メニューの**ファイル > 新規 > Stitch 接続**を選択します。**Stitch 接続**ダイアログが開きます。



2. **アクセストークン** フィールドにユーザーのアクセストークンを入力します。

3. **次から開始**コントロールにインポート開始したい日付を入力または選択します。

精度の高い予測を作成するには□GMDH Streamlineに少なくとも24か月の販売履歴を設定することを強くお勧めします

2020/09/29 06:44

4. **タイムスタンプのグループ化**コントロールにてデータ集計期間を選択します。データを設定された(日、週、月)期間で自動的に集計します。例えば、予測、補充計画や他のレポートを月単位で確認する場合、月単位でデータをグループ化します。

Stitch Xの場合、追加の手順が必要です。未完了 購入オーダー□(POs)と未完了 移動オーダー□(TOs)が保存されているCSVファイルを設定します(下記)。

5. 未完了購入オーダー□(POs)と未完了移動オーダー□(TOs)が保存されているCSVファイルを設定します。(Stitch Xのみ必要な手順です。)

CSVファイルのフォーマットは、Stitch Xの**購入オーダーインポートファイル**のフォーマットに合わせます。列は次のようにします:

- 予定到着日 (mm/dd/yyyy)
- 倉庫
- SKU / 派生製品 ID
- 数量
- 単位費用 (任意)

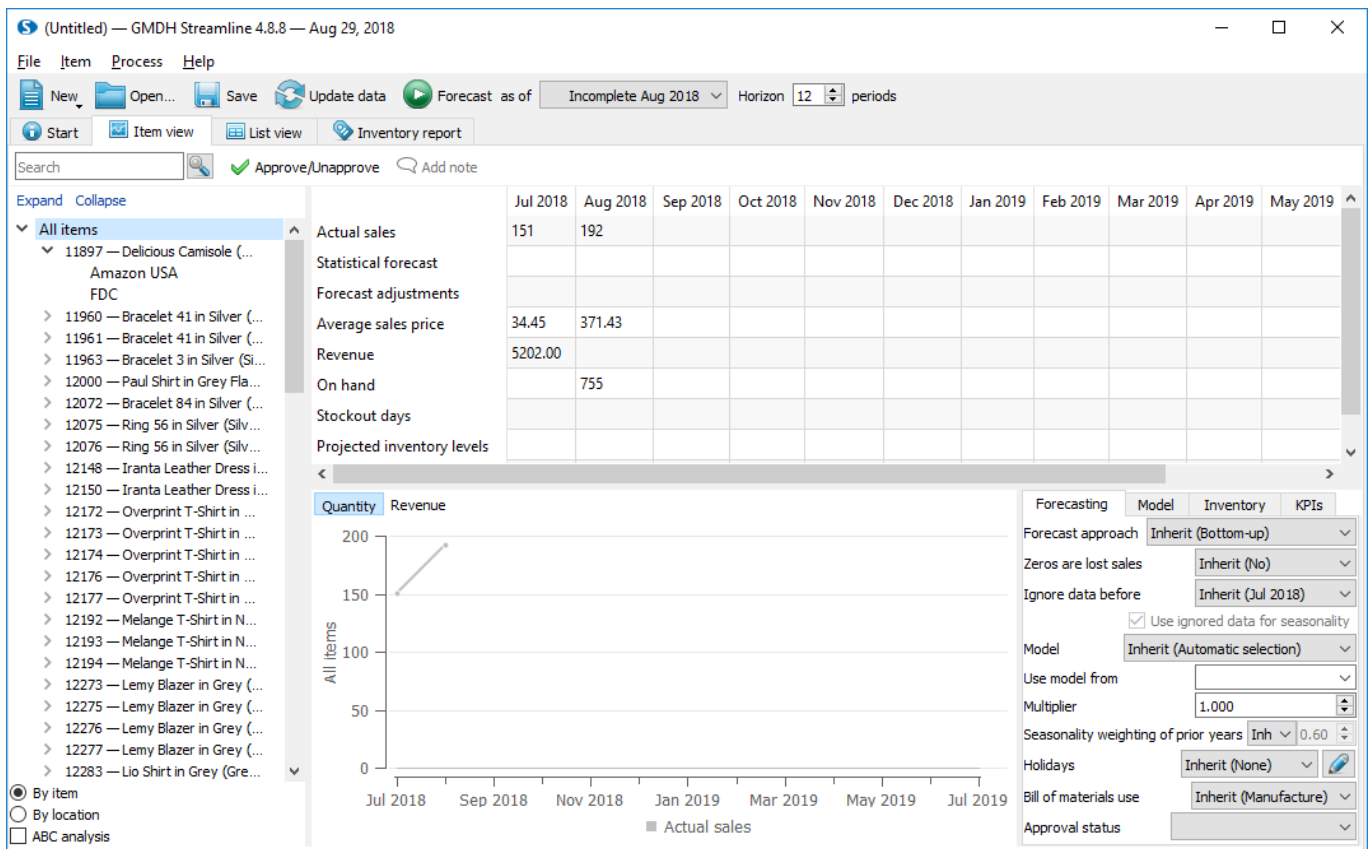
A	B	C	D	E	F	G	H
Expected Arrival Date	Warehouse	SKU / Variant ID	Qty	Unit Cost	Supplier SKU	Description	Unit Discount

CSVファイルには、未完了移動オーダー□(TOs)の保存が必要です。未完了購入オーダー□(POs)に関しては、購入先から倉庫へ現在配送中の明細です。未完了移動オーダー□(TOs)に関しては、移動元倉庫から配送済み(手持ち在庫は減算済み)であるが、移動先倉庫にて受け取りができていない(手持ち在庫は未変更)明細です。

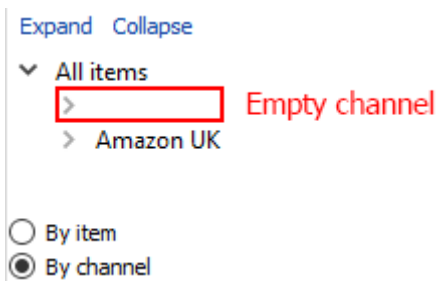
CSVファイルを設定するためには、**積送CSVファイル**近くのフォルダアイコンをクリックして、ファイルを指定し、**開く**ボタンをクリックします。

6. **開く**ボタンをクリックし、インポートを開始します。この場合□GMDH Streamlineは、Stitch内にあるすべての倉庫とチャンネルをインポートします。すべてのチャンネルの需要は、1つの仮想的なチャンネルにまとめられます。在庫は、各倉庫別にインポートされます。

APIの制限により、過去の販売オーダーは、1回のインポートでGMDH Streamlineに1回エクスポートされます。ユーザーが **プロジェクトの更新** をしても□GMDH Streamlineはすべての販売オーダーをインポートできるわけではなく、新しいオーダーだけをインポートします。しかし、最初のインポートは最大24時間かかります。



倉庫別のデータをまとめ、インポートが完了後にツリービューにて空の名前のチャンネルを見つけた場合、このチャンネルは保存されているいくつかの在庫を含む派生製品を持ちますが、インポートされたチャンネルでは、いずれも派生製品を販売していません(下記の図を参照)。



高度なインポート

Stitch 接続ダイアログの**高度**ボタンは、ユーザーが一部の倉庫やチャンネルを選んでインポートするための追加設定を表示します(下記の図を参照)。これらの設定は、チャンネルのまとめや倉庫のまとめ、あるいは両方のまとめができます。

Stitch connection

Access token 5df82bsdf8df7mb672kjg4kldnqp56b34vuu2554

Starting date 8/1/2016 Group by Month

In transition CSV file

Advanced ↓ OK Save Cancel

Check warehouses and channels you want to import.

Warehouses

- Amazon USA
- FDC
- Transfer Warehouse

Channels

- Shopify
- Stitch

Quick scan Deep scan

Combine: Warehouses Channels Both

次の手順に従い、設定を利用します。:

1. 利用できる倉庫とチャンネルをスキャンします。スキャンするには、**クイックスキャン**ボタンまたは**完全スキャン** ボタンをクリックします。

クイックスキャンは、互いが接続している倉庫とチャンネルをすべてスキャンします。したがって、チャンネルと接続している倉庫のみをインポートしたい場合、クイックスキャンを利用します。スキャンが終了するとGMDH Streamlineは、見つけた倉庫とチャンネルを一覧に表示します。

完全スキャンは、Stitchで利用可能な倉庫とチャンネルをすべてスキャンします。

2. 一覧から必要な倉庫とチャンネルを選択します。

3. まとめるためのオプションを選択します。

- **倉庫** - 選択した倉庫を1つの仮想的な倉庫にまとめます。このオプションが利用できる場合、**チャンネル別需要予測**ができます。
- **チャンネル** - 選択したチャンネルを1つの仮想的なチャンネルにまとめます。これは、デフォルトオプションです。
- **両方** - 選択した倉庫と選択したチャンネルを、2つの仮想的なエントリーにまとめます。

4. **OK**をクリックして、インポートを開始します。

プロジェクトの更新

データ更新ワークフローは、クラシックStitchとStitch Xにて異なります。

クラシックStitch

クラシックStitchの場合、プロジェクトの更新は非常にシンプルです。 - ツールバーにある**データ更新** ボタンをクリックするだけです。

Stitch X

すでに説明しているように、Stitch XではAPIは未完了購入オーダー(POs)と未完了移動オーダー(TOs)に関する情報を公開していません。つまり、ユーザー自身の同期情報操作が必要です。Stitch 接続の設定の一部でCSVファイルを経由した **更新**が必要です。同期の手順を後ほど説明します。

インポート時には、未完了購入オーダーと未完了移動オーダーが保存されたCSVファイルを**設定**していると仮定します。これらのデータを将来にて正しく同期するには、次の手順に従います。:

1. Stitch内の未完了購入オーダーと未完了移動オーダー明細を受け取り/追加します。受け取りの場合、手持ち在庫の変更が必要です。
2. CSVファイルを開き、Stitch内の受入/追加 明細に従い、取引をユーザー自身で更新します。
3. CSVファイルを保存します。
4. GMDHStreamlineにてプロジェクトファイルを開き、ツールバーにある**データ更新** ボタンをクリックします。Stitchからの更新情報とCSVファイルがよみこまします。

接続設定の初期化

適宜、接続設定の初期化できます。次の手順に従い、初期化します。:

1. プロジェクトファイルを開きます。
2. メニューの**ファイル > 接続 変更 > Stitch 接続**を選択します。現在の設定が表示されます(下記の図を参照)。

Stitch connection

Access token

Starting date Group by

In transition CSV file

Check warehouses and channels you want to import.

Warehouses

- Amazon USA
- FDC

Channels

- Shopify
- Stitch

Combine: Warehouses Channels Both

3. 未完了購入オーダーと未完了移動オーダーに関連するCSVファイルをリセットできます。
4. 新規倉庫や新規チャンネルにはスキャンをします(下記の図を参照)。

Stitch connection

Access token

Starting date Group by

In transition CSV file

Check warehouses and channels you want to import.

Warehouses

- Amazon USA
- FDC
- Transfer Warehouse

Channels

- Shopify
- Stitch

Combine: Warehouses Channels Both

5. 必要に応じて倉庫/チャンネルを再度選択します。
6. まとめオプションを再設定します。

7. **保存** ボタンをクリックして接続設定を保存します。

通常の次の手順は、 [完全な更新または完全な再インポート](#)から [プロジェクトの更新](#)または [プロジェクトの再インポート](#)を選択します。

[次へ: TradeGecko](#)

[PDFダウンロード](#)

From:

<https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/> - **GMDH Streamline Docs**

Permanent link:

<https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ja:stitch-connection-guide>

Last update: **2020/09/26 14:31**

